

妊娠・出産後の母親の症状と乳児期の頬症状を経た母子アトピーの経過 (37 歳 女性・女兒)

症例 ID：001-30-KK3 | 記録日：2016 年 2 月 13 日

1. 診断・治療前経過

母親は妊娠をきっかけにステロイドを中止したいと考え、松本医院を受診されました。妊娠中から煎じ薬、外用処置、入浴を続けました。

出産後、母親は全身症状が悪化しました。娘は出生時には皮膚症状がありませんでしたが、数か月後に体と頬に症状が出て、頬は浸出性となりました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	母親は妊娠前まで外用薬を使用していました。娘にはステロイドを使用していません。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	母親の使用期間は不明です。
中止時期	妊娠中の受診時期に中止しました。
来院前／後	母親は来院前に使用歴があります。娘は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
妊娠中	治療開始	母親が煎じ薬、外用処置、漢方入浴を開始しました。
出産後	母親の悪化	母親の全身に症状が強く出ました。
娘の生後数か月	乳児症状	体と頬に症状が出て、頬は浸出性となりました。
娘 1 歳頃	変化	見た目で見えるほどの症状がみられなくなりました。
娘 1～3 歳頃	軽い症状	軽い症状が時折出ました。
娘 3～7 歳	経過後	アトピー症状はみられず、本人は治療時期をほとんど覚えていませんでした。

4. ピーク時期

娘のピークは、生後数か月に頬が浸出性となり、見た目にも強い症状が出た時期です。母親は出産後に全身症状が悪化しました。

5. 困りごと

- 母親自身の出産後の症状と、乳児の皮膚処置を並行する必要がありました。
- 娘の頬の症状に対する周囲の言葉が心理的な負担となりました。

6. 経過のまとめ

娘は 1 歳頃には見た目で見えるほどの症状がなくなり、3 歳以降から 7 歳の記録時点までアトピー症状はみられませんでした。

母親は引き続き治療を継続していました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。